

あらぐさ



2015年度の卒業研究発表会、35期生41名全員の発表が終わりました。

最後の臨地実習を終え、発表までの期間はわずか2週間足らず、本当にがんばりました。

臨床指導者のみな様にはチームメンバーとの連携をはじめ、学生と共に考え、励まし、学生の学びを動機づけ、実習の環境を調整していただきました。

さて今回の発表会、看護者としての自分の願いや迷いが率直に表現され、患者さんとみなさんとの関わりが映像のように浮かぶような内容でした。文献も効果的に活用されており、「患者の立場」「寄り添う」「傾聴」などのkey wordを自分の言葉で意味を深め、学んだことの表現に説得力がありました。また患者さんとかかわる35期生の力が成長したことも確認できました。実習指導者さんが講評でつぎのようにのべておられたのが印象的でした。

面会に来たご家族が患者さんの様子を見て『「今日も良い日だったろうと思う」そう語っていた、現場の看護もこうありがたい』と。

行き届いた看護ケアはご家族の方がその場にいなかったとしても自分の大切な人が温かくケアされていることを実感させ看護に信頼を寄せてくださるのです。看護者として自分の五感を研ぎ澄ませ、声にならない声、ねがいを聴き取り、実現しようとするみなさんの汗を感じるものでした。

さて、あらためて本校の教育目標を確認したいと思います。一つ目は「患者の立場に立つ看護」を基本理念とした患者観、医療観、社会観を養う、二つ目は「患者の立場に立つ看護」を行う専門職業人として必要な知識と技術を身につけ、臨床において個別に応用できる能力を培う、三つ目は多面的で高度な要求にこたえるチーム医療の推進において看護師としての職務に誇りと責任を持ち、創造的に行動できる豊かな人間性を育てる、です。

この発表会で35期生はこの3つの目標に到達できたこと確認したいと思います。また、この2日間の発表会では1年生・2年生のみなさんから活発な質問をいただきました。3年生は後輩からの率直な質問で、自分の取り組みや学びに確信を深めることができました。

「看護は前に進まない限りは退歩するもので、看護師は常に学び続けなければならない」と言ったのはナイチンゲールです。すべての学生のみなさんが今回の学びをバネに看護の必要な人々にその成果を発揮しつつ、自分の看護観の構築への歩みを止むことなく確実に前へ進められるよう期待しています。

—12月16日第35期生卒業研究発表会総評より— 副学院長：雨宮久子

「臨地実習中に実施した避難訓練」学会で発表

第27回日本看護学校協議会学会（2015年8月7日：大阪） 教務主任 河西光子

看護学生は居住地から離れ土地勘のない地域で実習することが多く、大規模災害の発生の際は帰宅困難な事態に陥る可能性をもっています。本校は2年前、地震発生時の行動マニュアルを作成し、臨地実習中の大規模災害を想定した避難訓練に取り組んでいます。2014年11月の避難訓練を通して学生の災害時の行動予測について調査しました。多くの学生が訓練によって自己防災の意識がもて、臨地で得られる情報をもとに帰宅するか否かの判断をしていました。一方で帰宅困難となる学生が全体の75%を占めていたこと、家族と連絡がとれない場合の対策を考えていない学生が62%いたことが課題になりました。

そこで今回、第27回日本看護学校協議会学会で「臨地実習中における学生の災害時行動の予測と学校の対策 ～臨地実習中の防災訓練の評価～」というテーマで上記の内容を発表しました。

臨地実習中の避難訓練を実施している学校は少なく、また臨地実習中の災害時対策についてマニュアル化がされていない学校が多いことが分かりました。

災害はいつ来るかわかりません。学生の皆さんは災害時の約束事項を家族内で話し合うことが大切です。本校は今後も臨地実習中の避難訓練に取り組み、学生の皆さんの自己防災の意識がより高められるよう支援するとともに、帰宅困難者に対応した避難先及び生活物資の確保に取り組んでいきたいと思います。



看護の道を歩む決意をあらたに-1年生

2015年11月14日、今年度入学した第37期生42名の戴帽式が挙行されました。ナースキャップ廃止に伴って戴帽式そのものが行われない学校もある中、共立高等看護学院では、学生達がつくり上げる過程を大切に引き継がれています。

看護師になる決意を表す「誓いの言葉」の一言一言だけでなく、戴帽のための登壇、キャンドルサービスの入退場、その時に流すBGMに至るまで、一人ひとりが役割を持って実行委員会形式で準備をすすめます。

多くの意見をまとめる苦労、大勢の前で意見をのべる勇気、違う意見を否定せず受け止める努力などの経験をしながら、看護の道を歩む決意をあらたにしていきます。

本番ではこれまで支えてくれた家族や先輩に見守られながら、一人ひとりが感動の涙で声を震わせ、それぞれの思い描く看護師像に向けて歩み続けることを誓い、会場は言葉に出来ないほどの感動に包まれ、未来の医療を担う看護師の卵たちの姿はとても頼もしく、愛おしさを感じました。



37期生は、戴帽式に向けた取り組みを通して、かけがえない命を持った患者さんのために頑張る続ける事の出来る一人ひとりであることを確信しています。そんな彼らをこれからも全力で応援し、看護について共に学び合っていきたいと、担任・副担任ともに心あらたにした式となりました。

1年生担任 塩澤詩穂



講義・演習・各地での実習に奮闘—2年生

36期生は、10月から2月まで4カ月にわたる臨地実習の前半が終了しました。

今回の実習では、内科や外科、小児病棟、障害児保育園、生命の誕生に立ち会う母性など様々な経験をしています。手術した患者さんが元気に退院したこと、生命の誕生に立ち会えた感動を生き生きと語る学生…。ひとりひとりの学生が真摯に実習に取り組んでいる様子が伺えます。しかし、実際には楽しい事ばかりではありません。これまでの実習よりも高いレベルの看護実践を求められるため、実習の課題をクリアするために寝る間を惜しんでレポートに取り組む学生も少なくありません。

ご家庭でのサポート、実習の場では臨床の皆さんの温かい声かけなど、それぞれのお立場で支援していただくことが何よりの励みとなり、担任として関係者のみなさまに感謝しております。



山梨看護学会に参加

12月には看護研究の授業で山梨県看護学会へ参加し、先輩看護師へ堂々と多くの質問をし、学びを深めることができました。

年明けも、早々に実習再開となります。

体調を崩しやすい時期ではありますが、学生一人一人が自己の課題に向き合い、大きく成長して2月の実習終了を迎えられることを期待しています。 2年生担任 鈴木美緒



成人おめでとう！

—私が20歳の頃（押領司 宮川 水上）—

押領司 民

私は、高校を卒業した後、友人たちより1年遅く、二十歳になる年に地元の看護学校に入学した。進学につまずき紆余曲折した挙句の進路選択であった。本来希望していた進路ではなかったため、看護学校に入学した後も、将来看護師として働く自分の姿が全く想像できなかった。1歳年下の同級生は幼く見え、狭い教室で行う板書中心の単調な授業は、このうえなくつまらなかった。自治会活動、歌声祭典への出演、看護学校の様々なルールなど全てが煩わしかった。

そんな私に一つの転機が訪れた。1年次の初夏に行われた最初の実習である。私が受け持った患者さんは、すい臓がんの終末期の方で、中心静脈カテーテルや胆管ドレナージなどの管が何本も挿入され、痛み止めの点滴をしており臥床安静の毎日であった。ある朝私が病棟に行くと、「患者さんは昨夜から高熱が出ており、痛みが強く一晩中眠っていない。」と申し送りがされた。私はチームの看護師から、「患者さんが汗をかいているから、朝一番で全身清拭をするように。」（次頁へ）

と言われ、その日の患者さんの担当看護師と一緒に全身清拭をすることになった。

しかし私は苦悶表情で苦しむ患者さんに対し、安楽な清拭を提供できる自信がこれっぽっちもなかった。それでも、患者さんを前に逃げ出すことはできない。私は、自分が力量不足であるという悲観的な感情で行動が鈍った。もともとと時間をかけて熱いタオルを用意し、憂鬱な気持ちで担当看護師に「全身清拭をお願いします。」と声をかけた。

来てくれた担当看護師は意気消沈している私とは対照的に、特別なことは何もないといった様子で患者さんのベッドサイドに立ち清拭を始めた。歌うような口調で「体を拭きますよ～、向きを変えますよ～」と声をかけながら、手際よく清拭をすすめていく。その動きには一切無駄がなく、何本もの管が患者さんに装着されていることなど感じさせなかった。看護師にとっても患者さんにとっても私の存在は必要がなかった。看護師は何気ない所作で軽々と2回ほど体位変換をして、あっという間に全身清拭と更衣を済ませ、「終わりましたよ～」と患者さんに声をかけた。すると、一晩中苦しんだ患者さんが、安楽な表情で静かに寝息を立てて寝始めた。「痛み止めの点滴さえ効かず一晩中苦しんだ患者さんが、看護師の清拭一つでこれほど安楽になるのか。」と驚いた。「これが看護か…」と思った瞬間だった。

20歳の頃、私は患者さんの前で完璧に無力だった。看護とは、進路に迷っているような未熟な私が簡単に出来るものではなく、底知れぬ大きな力と可能性を持っていた。



20歳の頃—高原にて（左）右は桐原教員

その実習の後、私が生まれ変わったように勉学に励んだかということ、そんなことはない。相変わらず看護学校は窮屈でつまらなかった。しかし、実習では毎回患者さんとの運命的な出会いとドラマがあった。人生の方向が見いだせないようなしがない私を育ててくれた患者さんとそのご家族、叱咤激励してくれた臨床の看護師さんたち、私の変化を気長に待ってくれた教員たち、迷惑をかけた学友たちに今はただ心から感謝したい。

私が二十歳を迎えた頃は、消費税率が5%に引き上げられ、冬季オリンピックが長野で開催され、映画では「タイタニック」がブームを呼んでいる時代でした。その頃を思い出すと、一番印象に残っていることは、看護学院で出会った同期生と過ごした日々です。授業、実習、放課後と何をするにも一緒に過ごしていました。高校生活とは異なり、時間やお金の使い方が自由になり、数多くの失敗や時に周囲に迷惑をかけながら、自由と自律を学習した時期だったように思います。共に過ごした同期生は、現在県内外で看護師として奮闘しています。先日、久しぶりに同期生の一人に会う機会がありました。その際、学生生活を懐かしみ、お互いの近況を伝え合いました。数分の出来事でしたが大いに励まされ明日への力になりました。20年弱経た今もお励まされ、そのような同期生の存在が今の私を支えてくれていることを実感しました。これからも先も支え支えられる関係性は続きます。

同期生と切磋琢磨しながら看護師として女性として成長し続けてゆきたいと思います。そう私を前進させてくれたのも、同期生の存在あり、生涯の誇りです。最後に、これまで暖かく見守ってくださった多くの皆様にも深く感謝いたします。（宮川江里）



20歳の頃—実習室にて（左上）

高校時代を有意義に過ごせず未熟者という強いコンプレックスを力(?)に一浪して進学した年に、両親から町の成人式への出席を勧められました。^{はな}端から出るつもりはなく、ありもしない定期試験と重なると嘘をつきました。「こんな田舎の儀式で年寄りの面白くもない説教を聞かされてたまるか!」と思ったのです。育った「生活世界」にある因習と家父長的な雰囲気や土着的風習としか思えない地域の行事が嫌いでした。都内大学での生協活動と現代社会の原点たる西欧近代の原理を説く社会思想史の講義は、その思いに輪をかけました。近代市民社会の理念と人間観にこそ田舎の精神風土を打ちのめす強力な批判力があると強く思ったのです。「そうだ、これだ!」と。潜在的にそういう「武器」を求めていたのでしょう。その問題意識は今も、学ぶ動機となっています。とはいえ徐々に、世界は地域の集合という当前の発想に変わってきました。コスモポリタンの(?)に成長したのかもしれません。(妥協か、はたまたエネルギー枯渇か?!)

20歳を機に視野広く人間と世界を捉える体験と学習と思索を更に大切にされることをお勧めします。それはライフワークのベースとなる問題意識を形成します。内面的財産ともいえます。誰もが人間らしく生きられるヒューマンな地域社会創りの担い手となられるよう期待します。

今日の自分が未来の自分を創ります。(・・・これも、かつて自分が嫌った説教の類か?!)

(水上和貴)



20歳の頃-ハケ岳赤岳山頂にて(右)

看護について探求を続けて！－3年生

3年生41名が、県立文学館にて3年間の集大成である卒業研究発表を行いました。凛とした表情で堂々と自己の看護実践を発表しました。41通りの看護実践、41通りの看護観に触れ、自己の看護観を深めることができました。発表内容から、ぐっと臨床の看護実践に近くなったことや、学んできたことを吸収して自己の看護実践に活かす事ができていたことを改めて知り、3年間の個々の成長を実感できました。看護に終わりはありません。「私の看護観はこれ!」ではなく、これからも看護について探求し続けてほしいと願っています。

2日目には近藤尚己先生(東京大学大学院医学系研究所准教授)に「社会を見据えた医療を一目の前の患者のためにー」とのテーマで講演をしていただきました。実際に出会った患者さんや、自身の活動などをもとに社会と私たちの健康が密接につながっていることを分かり易く話されました。患者を取り巻く社会を知らねば、患者の立場に立つことは難しいことを学びました。

3年生担任 岩波美和



日本国憲法を 口語訳してみたら

著者 塚田薫

監修者 長峯信彦



護憲? 改憲!? その前に...

読んだことありますか?

「これなら読める(笑)」「面白い!」と
新聞・ラジオ・ネットで大反響!

読者全員に「自民党改憲案の口語訳」をプレゼント! (詳しくは8頁)

定価 6年1100円(税別)

『日本国憲法を口語訳してみたら』 著者：塚田薫

幻冬舎 1100円

「憲法ってなに?」と友人に聞かれ、大学3年生の作者は、憲法っていうのはこんな感じ、と何気なく話すとこれが予想外に好評で、「2ちゃんねる」で『日本国憲法を口語訳してみた』というタイトルで書き込みを始めた。すると、予想以上の反応があり、文庫本になったものです。口語訳した一文を紹介します。日本国憲法前文：「俺たちはちゃんとみんな選んだトップを通じて俺たちと俺たちのガキと、そのまたガキのために、世界中の人たちと仲良くして、みんなが好きなことができるようにするよ。また、戦争みたいなひどいことを起こさないって決めて、国の主権は国民にあることを、声を大にしていうぜ。これがこの憲法だ。」というように書かれています。

憲法って難しくて嫌だと思いかちですが、とても分かりやすく、面白く学べる一冊です。

原爆・水爆禁止世界大会参加 報告

2015年8月に長崎で行われた原水爆禁止世界大会2015に本校学生自治会の代表2名が参加しました。
派遣にあたり御支援をいただきました父母の会の皆様、飯田地区の皆様にお礼を申し上げます。

小林千華 (37期生)



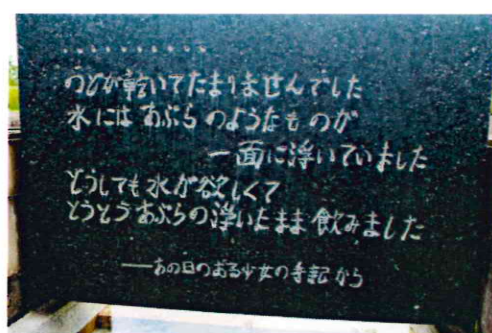
原水爆禁止世界大会の参加は今回が初めてでしたし、このような大会があったことも今まで恥ずかしながら知りませんでした。学校の方でそのような大会があると聞いた時にとても興味がわき是非参加してみたいと思いました。小学校の頃から原爆について授業で学んでいましたが実際被爆者の話を聞ける機会はなく、ただ先生の話聞いて教科書の絵を見るというだけでした。被爆者が少なくなっている今原爆について話を聞ける機会はなかなかないと思います。だからこそ原爆投下された地長崎に行き直接自分の目で見て肌で感じたいと思い立候補しました。

世界大会開会・閉会総会では5000人~6000人も人が集まりこんなに規模が大きい大会だと知り圧倒されました。また全国からだけではなく世界各国からも参加されていることに驚きました。核兵器廃絶をめぐる国際政治の最前線で活躍する方たちのお話を聞き憲法9条は絶対に守らなくてはならないものだと感じました。日本は世界で唯一原爆投下された地です。だからこそ声を大にして核兵器反対と言いまう二度と戦争が起こらないようにすべきだと思いました。世界中が核問題へ大きな関心を持っていると感じた大会でした。

二日目の分科会で私は青年の広場に参加しました。被爆者の高齢化により被爆体験を話せる人が少なくなってきた今、こうして話が聞けたことに感謝したいと思います。実際被爆者の話を聞いて戦争の悲惨さ、(次頁へ)

原爆の恐ろしさを改めて感じる事が出来ました。原爆投下の地をこれ以上絶対に増やしてはならないし長崎で終わらせなければならないと思いました。

今回、世界大会に参加したことにより自分が今まで日本の政情について無知だったことを思い知ると同時に原爆・戦争についての意識が大きく変わりました。また、平和についてこんなにも多くの人が真剣に考え行動していることを知りとても刺激を受けました。参加しただけで満足するのではなく家族、友達、そして様々な人たちに今回学んできたことを伝えていかなければ意味がないと思います。一人では小さな力だけでも皆で協力すれば大きな力になると思います。平和な未来を築くためにもこれからはアンテナを高く張り沢山勉強して、核兵器廃止のための署名活動などにも積極的に取り組んでいきたいです。



須田真依 (37 期生)



初日の記念館では原爆の恐ろしさを痛感しました。目を塞ぎたくなるような写真ばかりで、教科書には載せられないような写真もあり、ここでしか見られないものを見、貴重な時間を過しました。三日目に行われた自分で選択して参加した青年のひろばでは、実際に被爆者の話を聞くことが出来ました。私のグループは2名の話を聞きましたが、2名とも小さい時の頃でよく覚えてない中で、お話しいただきました。1人の方は4歳の時に被爆しており、被爆後一番苦労したのが食物がないことだと言っていました。戦時中はどこの地域も食料に困っていたことが分かります。

被爆者の話の中に、原爆症認定という言葉が出てきました。それは原爆によって病気が発症したりする人に原爆症認定というものが与えられるそうなのですが、それは簡単にはもらえないらしく、何年も申請して待っている人もいます。私はそれに関して、なぜ被爆しているとわかっているのに、原爆症認定がもらえないのかわかりませんでした。そして、参加者同士で自分の意見を言いましたが、ある人が確かに戦争は反対だけど、その戦争反対って大きな声で叫ぶだけでは若者や通りすがりの人の耳には届かないよね、と言っていました。私も近くを通る人として、確かにそうだと思う気持ちがありました。若者も戦争には反対していることは分かっていますが、それをどう共感してもらうか、どう力になってもらうかが課題点ではないのかと思います。何かが変わり若者に伝わっていけば、これからの大きな力になってくると私は考えました。最終日の閉会式の女性の被爆者の話が私は心に刺さりました。その女性を、自分に置き換えたときどれだけ辛く、苦しく、寂しいか。家族が一瞬でこの世からいなくなってしまう、自分一人になったら私はどうになってしまうのだろうか。その女性は今までその苦しみを抱えて被爆してから今まで生きてきた。本当に素晴らしいと思いました。実際に被爆し家族までも失い、今こうやって戦争反対！と声をあげているのを聞くと絶対にしてはいけないことなんだと改めて思います。若者なども実際に被爆した人の話を聞く機会があれば、今日本がどのような状況で、今国民が9条を守る意味が分かってくるのではないのかと思います。

私は今回原水爆禁止世界大会に参加して良かったです。参加する前より原爆のことを知ることができ、また山梨以外で活動している若者との関わり、とてもいい機会となりました。私は学生の代表として参加させてもらい、この学んだことをしっかりと自分達なりにまとめ、発表し共有できたらと思います。そして一緒に参加した民医連や他の方々には優しくしていただき、甘えてばかりで申し訳なかったですが、とても、充実した四日間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

父母の会より

■経過・予定

- 7月 ・2,3年生合同部会開催・2015年度第一回役員会
- 8月 ・原水爆禁止世界大会参加学生への補助
・年度会費5000円納付通知発送(9月末納付期限)
- 11月 ・1年生戴帽式 記念ナースウォッチ寄贈 式後学校と懇談
- 2016年
 - 1月 ・3年生国家試験学習激励
 - 3月4日(金) 第35期生卒業式 記念品贈呈予定
 - 同日 ・2015年度第2回役員会
 - 4月上旬(入学式の日)2016年度父母の会総会



国家試験勉強を励ます父母会手作り豚汁 2015.1

◇ 教職員参加の研究・研修活動 ◇

- 11/10 講演会・シンポ「産前・産後ケアに望むもの」(河野)
- 11/11 「ラダーについて」山梨勤医協看護管理者会議(雨宮 押領司 河野 藤本)
- 11/15 山梨県看護協会中北支部研修会(梶原)
- 11/16 山梨県看護職能研修会：講演「最後までその人らしさを支えるために～看取りのケア実践②」エンゼルメイク・エンゼルケア(岩波)
- 11/24 山梨県看護師長会研修会「ディズニーランドトレーナーが明かす、どんなチームでも使えるディズニーウェイ(流)コミュニケーション」(河西 宮川 藤本 鈴木 梶原)
- 12/2 医学中央雑誌WEB版管理者向け講習会(河西 宮川)
- 12/9 山梨県看護職能研修会「看護ケアの現象学」(雨宮 河西)
- 2016
 - 1/9 e-Nurse セミナー「看護実践能力の評価」(河西 宮川)
 - 1/14 山梨県看護協会「変わる！あなたの認知症看護 認知症の病態生理他」(成島)
 - 1/29 山梨県看護協会「認知症の中核症状 特長とケアのポイント」(成島)
 - 2/4 山梨県看護協会「各場面における認知症患者の援助、事例検討」(成島)

予定♪



- 12月18日 冬季休暇(～1月4日)
- 12月25日 保健体育スキー実習(～27日)
- 2016年
 - 1月 5日 始業
 - 8日 前期一般入学試験
 - 2月 9日 1年生期末試験
 - 10日 後期一般入学試験
 - 14日 第105回看護師国家試験
 - 24日 2年生期末試験
 - 3月 4日 35期生卒業式
 - 10日 終業日
 - 中旬 新入学者オリエンテーション
 - 25日 看護師国家試験結果発表
 - 31日 2016年度前期学費納付期限

共立高等看護学院からお願い

平和安全保障関連法の廃止を求める署名につきましてご賛同いただけます際には、住所、氏名をご記入の上、本校事務課窓口までお寄せ下さい。

編集後記

年の暮れ、朝早くスキー授業に参加する学生たちはバスで志賀高原に向かった。暖冬の影響が気になるスキー場の「ゲレンデは白かった」。引率教員の第1報に胸をなでおろす。その瞬間、今度は年明けの降雪が心配になった。次々と心配のタネが浮かんでくるのはトシのせい、これまでの苦い経験の蓄積のおかげか。ともあれ明日の天候は変えられない。でも、未来は変えられる！と「平和安全保障関連法」の廃止を訴え高校生、大学生は行動し、中高年者をおおいに励ました。

2016年の参議員選挙では18歳選挙権が適用される。目の前の「課題」に真剣に向き合う姿は清々しい。さらに・・・視野狭窄に陥ってはいないか？社会をとらえる思考は停止していないか？自分に出来ることは何か？そう自問する未来を背負う若き知性はなお眩しい。(雨宮)